

館林市総合計画審議会 第2回子育てと学びの部会 議事録【概要】

1 日時

令和2年5月20日（水）午後1時30分から午後3時30分まで

2 場所

館林市役所5階504会議室

3 出席者

【審議会委員】9名

石川京子委員、河本尚樹委員、関口百合子委員、曾原幸子委員、平林恵美委員
森静子委員、渋谷理津子委員、柴田信委員、角田好二委員

【策定事務局参事】2名

生涯学習課長、こども福祉課長、健康推進課係長代理、教育総務課長（学校給食センター所長）、学校教育課長、文化振興課長、スポーツ振興課長、向井千秋記念子ども科学館、図書館長、

【事務局】1名

企画課政策推進係職員

【欠席者】1名

野村和利委員

4 会議内容

(1) 開会

(2) 部会の進め方

事務局より総合計画の構成、基本計画素案の見方、審議の進め方について説明。

(3) 議事

① 前期基本計画素案の審議

分野：子育て、学校教育、青少年、生涯学習、文化、スポーツの審議を行いました。委員の皆様からの主な意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

■ 分野全般

- ・素案の参考資料として示された第五次総合計画の達成度調査報告書において、評価し、出来たこと及び課題が記載されているが、これらを基に第六次総合計画の素案が作成されているのか。同報告書のうち、子育てと学びの部会に関する部分は、基本目的の4、5でよいのか。
 - ・達成度調査報告書の基本目的4、5に書かれている継続事項は、第六次の計画に全て盛り込まれているのか。
- ⇒同報告書における子育てと学びの部会に該当する基本目的は主に4、5となり、これらを踏まえ第六次総合計画の素案を作成したものである。ただし、報告書に記載

の個別の項目が直接素案にA=Aというように記載されているものではなく、さまざまな内容を包含した形で記載している。さらに、第六次計画では、視覚的にも分かりやすい総合計画としていくため、簡潔に記載がされている。

- ・館林市がどのような方向性で子育てや教育を進めていくのか分かりにくく、一般の市民の方々に伝わりにくい。内容を整理しながら市民に共感してもらえるような計画づくりが必要である。
- ・素案の各分野のうち、子育て、学校教育、青少年、生涯学習と続くが、子育てや青少年の分野で想定している年齢は何歳までなのか。子育ては学齢期前までなのか。学校教育は何歳から何歳までなのか。一方で、生涯学習は、成人した大人やリタイアした大人も含むものと思われるが、その辺りをどのように捉えればよいのか。
- ・今後、新型コロナのような新たな疫病が流行った場合に、第六次総合計画のような計画があったからこそ対応ができたと言えるような計画づくりが必要である。そのため、現在の現状を踏まえた内容を盛り込んでもらいたい。総合計画の中でも様々なことを想定した内容を盛り込むことで対応が可能となり、10年後のまちにも生かされるのではないかと。

■ 子育て

- ・施策目的の1について、「安心して妊娠・出産できる」とあるが、館林では安心してできないと感じている。まず、個人病院があっても大きな病院がないことである。市外の太田記念病院も緊急以外は受け入れない体制となり、近隣の足利赤十字病院も産婦人科を止めた噂も聞き、産科の必要性を強く感じている。私たちの年金も多少潤うように若い人たちに子育てを頑張ってもらえるように子育ての環境を考えて欲しい。少子化によって将来の先行きがますます不安になる。

- ・現状と課題の1について、「育児不安」という言葉が漠然としていたので分かりにくい。

⇒子どものしつけや成長、発達などの育児不安に修正する。

- ・小学校の空き教室の問題で、厳密な意味での空き教室は存在しないとのことだが、単純に市民の方々は空き教室は存在すると思っている。むしろ、それらをどのように使うかを問題提起している。子ども子育て会議の計画の中でもこの件が挙がっており、これと連動して総合計画の中でも示していただく方が良いと考える。そうすれば子ども子育て会議の計画との整合性も取れてくる。

⇒市民の皆様が使っていない教室は空き教室と捉えるのが当然であると思われる。そ

のため、学校施設をどのように使うのかという視点で考えていきたい。

■ 学校教育

- 現在、文部科学省で小中学生に1人1台のパソコンを備えるGIGAスクール構想を進めており、今後10年間の学校教育を考える中で、新型コロナウイルスの収束後もオンライン授業などの学習環境が求められる時代になると考えられ、第六次計画にもそういった点も反映させるべきである。
 - 今回の新型コロナの蔓延を踏まえ、新しい生活様式に変えていかなければならない中で、新たな学びの環境を整えることも必要である。
 - ICTについては、具体的な施策の中で推進していかなければならないものである。群馬県の館林市でもICTを活用できれば、外に出ていなくても館林に住みながら育つことも可能であり、そういった視点もあっても良いのではないか。
 - 生産施設だけでなく研究施設も誘致することで、研究職の方々やそのご子息など、教育のレベルに関して相当な意見をお持ちの方も来ると想定され、そういった方々を含めて教育のレベルを上げていくということも必要であると考えます。
 - GIGAスクールを実現するためには財政的な支出が必要となり、財源について解決できなければ前に進めないという回答があった。これは他の事業や総合計画でも言えることだが、総花的にやれば当然財政的に困難になる。どれかを集中してやることによって、そこを起点に物事が動いていくものと思っている。したがって、館林市ではどこに注力するのか第六次の計画全体の中で見極めていかなければならない。その一つがICT化、GIGAスクールの推進が大切になってくるのではないか。
 - 館林市は予算がないから一人一台のパソコン配置は無理であると決めつけず、文部科学省も4月に2292億円の補正予算を可決しており、100%市費ではなく国が進めようとしているため、素案の文言の中にも入れていかなければ時代にマッチしたものにはならない。
 - 太田市でもオンライン学習を行っているのでは是非館林市でもやってもらいたい。
- ⇒現在、スタディサプリを導入してオンライン学習を実施しているが、双方向の顔を見ながらのオンラインには到達していない。今の本市のシステムの状況では、スタディサプリのやり取りが精一杯である。ただ、これから10年後を見据えた時に、GIGAスクールを実現していきたい思いを持っている。関係部局と調整しながら実現可能な方策を探っている状況である。
- ⇒GIGAスクール構想の実現には、ハード面、端末やネットワーク環境があつてのものである。国の施策の方向転換により5年間で実施するものが今年度中に前倒しをされた。補助がある中で整備できることが理想だと思うが、ハード面が整備されたとしても利用の仕方が更に重要な問題になると思う。関係課と協力をしな

がら進めてまいりたい。

■ 青少年

- ・成長段階における育成のポイントというものがあり、それに向かって育成計画や支援をしていくということが織り込まれていると思うが、切れ目のない支援という点を意識して目的や問題を捉えていく必要がある。

■ 生涯学習

- ・現状と課題の2について、現代的課題というのはどういうことか。

⇒現代的課題というワードは、生涯学習の分野では割とポピュラーな言葉で、その時々、その時代に生きている方々にとっての社会的な課題や地域的な課題をイメージしていただきたい。今であれば防災とか子供を虐待してしまう親の問題であるとか、今を生きる人たちにとっての問題であるため、10年後には現代的課題の内容も変わってくる場合が考えられる。

- ・施策の方向3の「地域づくりの担い手」について、「自主性を育てること」と同じ意味であるとの説明であるが、どちらかと言うと担い手というのは主にプレイヤーを指していると理解している。他方、自主性というのはそうではなく、自分から見つけ出す力を持つ人のことをいう。実際、担い手と、いわゆる頭で考える人ではそれ程違いがないが、便宜上分けて考えることの方が多いのではないかと思う。これらを分けて明確にすることにより、現代的課題にチャレンジする仕組みを作っていこうとするものである。分けて表現しても別に違和感はないのではないか。むしろ、分けて考える意識を持つべきである。

⇒「地域づくりの担い手となる人材の育成や市民の自主性の醸成」に修正する。

■ 文化

- ・施策目的の3について、「里沼」という言葉が使われていないが、もったいないと強く感じている。改めて記載はしないということだが、ぜひ記載してもらいたい。

⇒「里沼をはじめとする歴史文化」という表現ができれば問題ではないのではないか。

■ スポーツ

- ・小学校で1年生から6年生まで遊びを通じたスポーツの取組を行っている。高学年になるとスポーツや遊びを通して大きい子は小さい子を面倒みる。小さい子は意外に外で遊んでおらず、かけっこではまっすぐ走っているとそのままぶつかってしまう子どももいる。顔からぶつかる子もいればよそ見をしてぶつかる子もいる。スキップができない子もいるし、大きい子がやっている小さい子はそれを

見ながら覚え、体で覚えていく。運動のできない子をいかに運動させて運動の楽しさを伝えられたら良いと思う。

■ その他（多文化共生について）

- ・ 館林市では第十小学校、第三中学校に日本語教室がある。現状としては、近隣の大泉町と比べてみるとそこまでは多くなっていないと思うが、着実に人数は増えており、現場の先生だったり、教育ボランティアのスタッフだったり、非常に重要になってきていると考えている。そういったところにも今後力点を置き、第六次計画にも盛り込んでもらいたい。また、災害の時や新型コロナなど感染症が流行った時に、外国の方は情報不足となるので不安がられる事も多く、館林で生まれ育っている外国の子供も多いため、フォローアップしていかなければならないと思う。
 - ・ 第五次総合計画では、子どもの人権や利益を最大限に尊重するという記述があったが、第六次の方では見当たらない。人権については、行政経営の部会の人権の尊重の分野で取り扱うとのことだが、外国の子どもが増えている中で、子育てと学びの部会でも、人権という意味で外国人や障害の方々に対して人権を守るという視点で子育てと学びの中にも入れてもらいたい。
- ⇒行政経営の部会の人権の尊重の分野において、施策目的の一つとして、多文化共生の地域づくりにより共に安心した暮らしという中で今後詳細に記述されることになっている。外国籍の方や障がいを持った方がいる中で、外国の子どもだけではなく大人も含めた対応ということで行政経営の部会の方で書くということ、障がいを持った方についても大人も子どももいる中で、障がいというカテゴリーの中で記述することになっている。
- ⇒生涯学習課では、社会人権教育の推進を担当している。外国人の方々の問題だけではなく、現代社会においては13の人権問題について取り組むように要請されている。13種類ほど挙げられているが、一度にそれを全て解決するための取組は難しいため、例えば、素案の現状と課題の2において、課題の啓発と解決を目指した社会教育の充実というような部分において課題意識として含めている。施策の方向についても、3の課題解決型の学習活動、担い手となる人材の育成、あるいは色々な前向きな方を差別することなく同じ市民としての意識を持っていただくように、自主的に行動ができる市民の育成という社会人権教育という観点から担当している。
- ⇒外国籍の子どもたちが学校に楽しく通える環境を皆様と一緒に作っていければ良いと考えている。
- ⇒ここ数年外国人が多く、赤ちゃん健診でも1割の方がミャンマーの方などの外国人である。言語の面で対応に苦慮しており、5月から多言語翻訳アプリを導入し、

妊娠届を提出した外国人が窓口に来た時や、家庭訪問では機器を使用して対応している。また、平成29年度から20か国語に対応した予防接種のナビをスマートフォンに登録してもらい、予防接種のスケジュールを各自で管理できるようにするなどして外国人の対応を行っている。

② 次回の部会開催日程の確認

次回の部会開催日程について確認を行いました。決定後、通知いたします。

(4) 閉会